

第42回：旅順開放約成りて

報道によると大連のとなりまち旅順が正式に对外开放されることになったようだ。むかし大連市に併合され旅大（リュイター）と名乗っていたこともある旅順市は軍港がある関係で、最近まで外国人観光客の立ち入りが制限されていた。NHKの連続ドラマ『坂の上の雲』が今年末から日露戦争に突入することになるようで、旅順の完全開放により、203高地や水師営にはこれから数多くの日本人観光客が押しかけることになるだろう。筆者と杉野孫七兵曹長とは何のゆかりもないのだが、旅順港閉塞作戦の現場にはぜひ花束を持って行きたいと思っている。

その旅順だが、昔ここでひどい目に遭ったことがある。北京に駐在していた80年代初頭のこと、夏休みを利用して大連に避暑に出かけることに決めた。仕事の関係で友人たちに一日遅れ、土曜日の最終便で大連入りすることになったのだが、大連空港は修理中で、飛行機は臨時空港に着陸するという。場所も市の郊外でタクシーもつかまらないから、友人が某日系企業の駐在員事務所に指示して車で迎えに来てくれる段取りとなっていた。

夕刻北京を飛び立ったイリュージョン機は、午後8時過ぎ臨時空港に到着した。空港といっても野原のなかに薄汚い自由市場のようなバラックがあるだけだ。このプロペラ機が大連着の最終便であったようで、乗客数十人はそれぞれバスやトラック等に分乗して慌ただしく飛行場を去って行った。ところが自分が乗る筈のセダンは一向にやって来ない。おかしいなあと思いながら30分くらい待たせようか、とうとう最後の乗客となってしまう、それでも辛抱強く待っていたら突然周囲の灯が消えて目の前が真っ暗になった。まわりには誰もいない。警備員も空港従業員もいない。近くに建物はなく、隣の滑走路でMiG-21に似た戦闘機がスクランブル発進の訓練をする轟音が響くだけである。突然の消灯に気が動転し呆然と立ち尽くしていたら、闇の中からシエパードを連れた警備兵がやってきて、お前は何者だと誰何され、解放軍基地に連れ込まれてしまった。状況からみて疑われるのは仕方ないと諦め、フランキー塚のような顔をした当直少尉から尋問を受けることになった。最初に旅行カバンを開けさせられ、中から軍用双眼鏡とスイスアーミーナイフが出てきたことから、フランキー少尉の顔色が変わり、話が更にややこしくなった。

少尉 「なぜ空港敷地に侵入したあるか？」

筆者 「侵入じゃなくて到着だ！」

少尉 「暗闇のなかで潜んでいたのは何故か？」

筆者 「潜伏ではなく、迎えの車を待っていただけだ。勝手に灯を消さないでくれ！」

少尉 「お前の中国語には台湾訛りがある、台湾から来たのか？」

筆者 「台湾訛り？失礼な、俺は上海訛り、あんたの東北訛りよりはましだろう！」

少尉 「このアーミーナイフは何だ？」

筆者 「アーミーナイフ？これはワインの栓抜き用のソムリエナイフだ！（ウソ）」

少尉 「この軍用双眼鏡は何だ？」

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

筆者 軍用かどうか知らんが、北京の骨董屋で120元に値切って買ったツアイスだ！（ホント）」

少尉 「このカメラで何か撮影したか？」

筆者 「フィルムが入ってないだろ、買い忘れたんだよ！」

少尉 「なぜお前の友人は迎えにこない？」

筆者 「だからこんな目に遭っているんだ。迎えに来る筈の日本企業の住所を教えるから、爆撃でも空襲でも好きにしてくれ！」

といった調子で吠えていたら、基地には搭乗機のクルーも泊まっていたようで、見覚えのある容姿端麗・明眸皓齒なスチュワーデスが、この方は怪しい人物ではないと加勢してくれた。闇夜に提灯、地獄に仏とは正にこのことであり、すったもんだの末やっと間諜の嫌疑が晴れた。彼女には北京でお礼するからと名刺を渡し、人民解放軍には車代として50元払い（領収書をくれと言ったら怒られた）、濃緑色の装甲車でホテルまで送ってもらい一件落着となった。話が随分長くなったが、非道い目に遭った臨時空港が実は旅順空軍基地だったのである。北京に帰ってから、助け舟を出してくれたスチュワーデス嬢と会い、マキシム・ド・パリ等で楽しいひと時を過ごした後日談は軍事機密に属する内容ゆえ、ここでは割愛する。

その後、90年代に入り、旅順市も軍港周辺以外は開放され、203高地や東鶏冠山を慰霊訪問することは可能だったのだが、昔のトラブルの悪印象が強く、泉下の英霊には誠に申し訳ないが未だ足を踏み入れていない。また日露戦争は大変悲惨な戦争だが、旅順要塞攻撃は特にいけない。よほど腹が立ったのだろう、司馬遼太郎氏は乃木第三軍の作戦の拙さを人災だと罵倒しているくらいである。乃木大将には若干気の毒な気もするが、彼の生真面目な性格が旅順戦の印象を更に暗くしているのは間違いない。彼が作戦終了後に作った有名な漢詩がある。（以下読み下し文）

爾靈山険なれども豈に攀ち難からんや、男子功名克艱を期す、

鉄血山を覆て山形改む、万人齊しく仰く爾靈山」 筆者注 爾靈山 = 203

作戦はともかく、この漢詩だけは神韻の域に達していると司馬氏は評しているが、この作品に接して晴れ晴れとした気持ちになる人はいない筈だ。その点、大山巖元帥や立見尚文中将（第八師団長）は詩才では乃木大将に遥かに及ばないが、プロの戦争指揮官として気分転換が上手であったようだ。敵将クロパトキン（黒鳩金）と揶揄した一連の駄作には悲惨な状況を笑い飛ばす元気がある。

川柳 黒鳩のねぐらを追ふて昼寝かな……大山元帥

狂歌 黒鳩が蜂（第八師団）に刺されて逃げ去れり、もはや渾河（来んか）と立ち見（立見）けるかな……立見師団長

戦争とはいつの時代でも正気の沙汰ではないが、その故に精神安定剤の作用を果たすモノが必要なのだろう。毎度中国投資と関係のない話題で申し訳ない。（了）

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成22年1月21日

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2075% (税込み) (約定代金が 260,869 円以下の場合、3,150 円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買の場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集、売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

株価指数先物 株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.20% (税込み) (約定代金が 2,625 円に満たない場合は、2,625 円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物 株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3

